

青少年指導者洋上研修で 伊藤直樹さん中国へ

千葉県教育委員会は、青少年指導者を中国に派遣し、中国青年との交流や現地の産業・歴史・文化などの学習や洋上研修を通して国際性豊かな人材の養成と日中友好親善の推進を図りながら、青少年指導者としてのリーダーシップのかん養を図るため、青少年指導者洋上研修を毎年行っています。

今年も七月二十六日から八月四日まで、九泊十日で中華人民共和国への研修が行なわれましたが、この研修に農協青年部員の伊藤直樹さん（尾垂六区）が参加しました。

伊藤さんは現在、自宅でガーベラを主とする切り花のハウス栽培をしており、農協青年部員として活躍されています。伊藤さんが研修を終えた感想を寄せてくれましたので紹介します。

洋上研修で

たくさんの友が

伊藤直樹

初めての中国、初めての船旅胸をときめかせて千葉港に着くと、もう大半が集まっていた。事前研修以来の友だちと、これ

からの本研修について不安と期待を抱きながら乗船までの時間を語り合った。

やっと時間がきた。いよいよ乗船、私たちが乗ったコーラルプリンセス号が千葉港の岸壁を離れる、いよいよ本研修九泊十日の始まりだ。この洋上研修の参加者は四〇〇人、この四〇〇人が十五組に分かれ、さらに一組が五班に編成された。私は十二組二班となった。

出港して一、二日目は船も揺れず、みんな元気で昼は研修に夜は各自の部屋に組の仲間が集まり、いくらアルコールも入り話がはずむ。

三日目は台風のため船が大揺れで、ほとんどの人が船酔いになり、昨日までの元気がうそのようだった。一夜明けると船の揺れも治まり、上陸もまじかか聞くとみんな大はしゃぎだ。

上海港に着く。下船すると港で子どもたちが元気良く私たちを歓迎してくれた。着いてすぐバスに乗り込み市内見物をした後昼食だ。初めて食べる中国料理、みんな残さずに食べてしまった。食事をすましてすぐ上海駅に行き、上海から蘇州に向かう臨時列車に乗り込む。

クーラーがきかない、蒸し風呂のような。電車が動き出すと、クーラーがきき始めてひと安心。

窓から見える広大な景色を見ながら話していると、あつという間に蘇州に着いた。そこでは刺しゅう研究所を見学した。細かい刺しゅう糸を使い丹念に一針一針刺して、「一枚仕上げののに二年も三年もかける物もある」と聞いた時には何ともいえない感激をおぼえた。

中国での初めての夜だ、夕食を食べ、さっそくみんなで外へみやげを買いに行った。買い物が出くわすと、すぐデイスコに行き、みんなでパーティーしてしまっ

た。中国二日目の朝、夕べの酒が残っているようだ。

無錫に向かう。駅に着くと、また小、中学生くらいの子どもたちが大歓迎してくれ、とても驚いた。市内見学をして夜は太湖遊覧をしながら中国青年との意見交換である。青年たちは日本語を話せたので話はずんだ。「日本へは来れないのか」と聞くと、「仕事の関係で行く事は可能かもしれないが、観光としてはとても無理な状態だ。財政的にもゆとりが無い」と話していた。

外の景色がとてもきれいで、心に残った夜であった。

中国三日目、最後の日である。有誼商店に行くと、もうみんな買い物ゲームをしているようだった。

た。

なごりおしい中国を後に乗船した。帰りの船では盛んな意見発表が行なわれた。我が十二組は、みんなが団結、夜も寝ずに研修を重ねた結果、二つ三位を取ることができてもうれしかった。

最後の船の中の夜は、さよならパーティーが終わってから十二組全員で朝の四時ごろまでなごりをおしんだ。

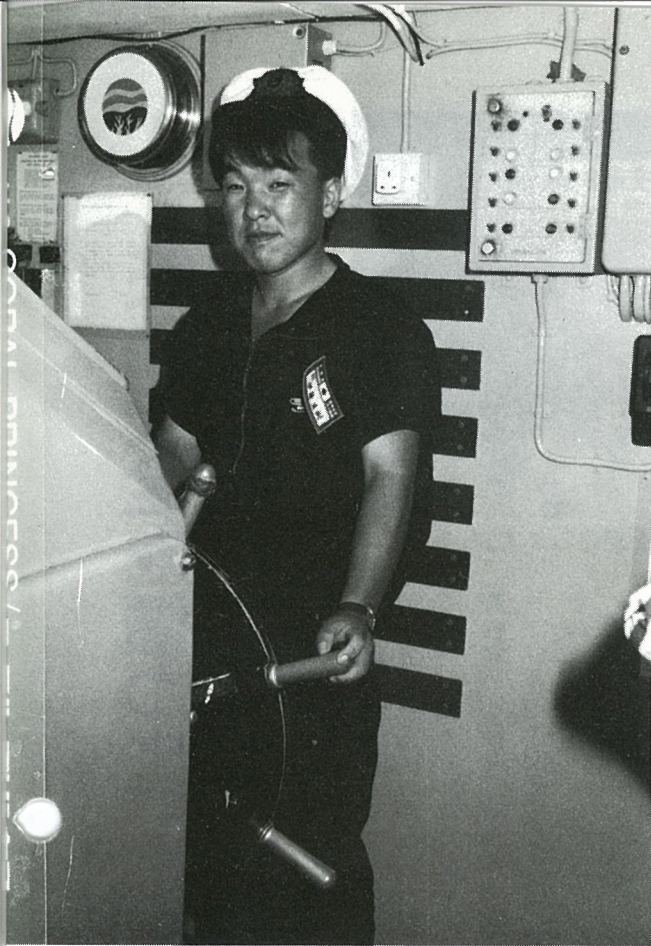
ねむい目をこすりながら朝起きると船はもう四国沖、もうすぐ千葉に着いてしまう。十日間は長いと思っていたが、帰ってしまうと短い。

船の中の研修、中国視察、大変良い勉強になったと思う。そして何よりも、多くの友だちができたことをうれしく思い、この研修に参加できたことに感謝しています。また、この研修で学んだ事を我が光町で役立てていきたいと思っています。

近況、九月五・六日に、この洋上研修に参加した十二組のメンバーが光町に集まりました。これからも年に二回くらい集まる機会を持ちたいと思っています。

〇ご意見、ご要望等は町民会館へお寄せください。

☎④1358



コーラルプリンセス号での伊藤さん